

国際レビュー業務基準 2410

事業体の独立監査人が実施する期中財務情報のレビュー

整合のための修正



International Federation  
of Accountants

## 質問、分析的その他のレビュー手続

19. 監査人は、レビューにより、期中財務情報が、すべての重要な点において、適用可能な財務報告のフレームワークに準拠して作成されていないと監査人に信じさせる事項が監査人の注意を喚起したかどうかの結論を出せるように、主として財務及び会計関連事項の責任者への質問と分析的その他のレビュー手続の適用をしなければならない。
20. レビューは、通常、実査、立会又は確認による会計記録の検証を要求することはない。期中財務情報のレビューを実施する手続は、通常、主として財務及び会計関連事項の責任者への質問と分析的その他のレビュー手続の適用に限定されており、期中財務情報に関連する重大な会計事項に関して入手した情報の裏付けをとることはない。内部統制を含めた事業体とその環境に関する監査人の理解、前年度の監査に関するリスク評価及び重要性に関する監査人の検討は、期中財務情報にも関係するため、行うべき質問と適用すべき分析的その他のレビュー手続の内容及び範囲に影響する。
21. 監査人は、通常、以下の手続を実施する。
  - ・ 期中財務情報に影響を与える可能性のある事項を識別するため、株主総会、統治責任者の会議及びその他の適切な委員会の議事録を通読し、期中財務情報に影響を与える可能性があるが議事録を入手できない会議において取り上げられた事項に関する質問を行う
  - ・ 前期の監査又はレビュー時に、監査若しくはレビュー報告書の修飾（modification）、会計上の修正又は修正されなかった虚偽の表示を生じさせた事項があった場合には、その影響を検討する
  - ・ 該当する場合には、報告事業体の重大な要素の期中財務情報のレビューを実施する他の監査人とコミュニケーションする
  - ・ 財務及び会計事項に責任を持つ経営者のメンバー及び該当する場合にはその他の者に以下に関する質問を行う
    - 適用可能な財務報告の基準に準拠して期中財務情報が作成され表示されたかどうか
    - 会計原則又はその適用方法に変更があったかどうか
    - 新しい会計原則の適用を要する新しい取引があったかどうか
    - 期中財務情報に既知の修正されていない虚偽の表示があるかどうか
    - 企業結合や事業セグメントの廃止などの期中財務情報に影響を与える可能性のある異常又は複雑な状況
    - 公正価値の測定又は開示及び事業体に代わって特定の一連の行動を行う経営者の意図と能力に関連する重大な前提

- 期中財務情報上、関連当事者との取引が適切に会計処理され表示されているかどうか
  - コミットメント及び契約義務の重大な変更
  - 訴訟や請求を含む偶発債務の重大な変更
  - 借入契約条項の遵守
  - レビュー手続適用の過程で生じた疑問に関する事項
  - 期中期間の最後の数日又は翌期中期間の最初の数日に発生した重大な取引
  - 以下が関与する、事業体に影響を与える不正又は不正の疑いに関する知識
    - ・ 経営者
    - ・ 内部統制に重大な役割を担う従業員
    - ・ 不正が期中財務情報に重要な影響を与えている可能性がある場合にはその他の者
  - 従業員、退職した従業員、アナリスト、規制当局その他により伝えられた、事業体の期中財務情報に影響を与える不正の申立又は不正の疑いに関する知識
  - 期中財務情報に重要な影響を与える可能性がある法律及び規則への非準拠性に関する知識
  - ・ 異常と考えられ、期中財務情報における重要な虚偽の表示を反映している可能性のある、項目間の関係及び個別事項を識別するために設計された分析的手続を期中財務情報に適用する。分析的手続には、比率分析、趨勢分析又は回帰分析などの統計的手法を含む可能性があり、手作業若しくはコンピュータを使った技法により行うことができる。期中財務情報のレビューを行う場合に、監査人が検討する可能性がある分析的手続の例は本ISREの付録2に提示されている
  - ・ 期中財務情報を通読し、期中財務情報が、すべての重要な点において、適用可能な財務報告のフレームワークに準拠して作成されていないと監査人に信じさせる事項が監査人の注意を喚起したかどうかを検討する
22. 監査人は、事業体による期中財務情報の作成前又は作成時にレビュー手続の多くを実施することができる。例えば、内部統制を含めた事業体とその環境の理解を更新し、期中期間終了前に該当する議事録の通読を開始することは実施可能かもしれない。期中期間の早い段階にいくつかのレビュー手続を実施することはまた、期中財務情報に影響を与える重大な会計事項の識別と検討を早期に行うことを可能にする。
23. 期中財務情報のレビューを実施する監査人はまた、事業体の年次財務諸表の監査の実施にも従事することになる。便宜上及び効率性の観点から、監査人は期中財務情報のレビュー時に特定の監査手続を実施することを決めるかもしれない。例えば、期中財務情報のレビューに関連して取締役会の議事録を通読して入手した情報を年度監査にも使うことができる。監査人はまた、期中レビューの

時点で、年次財務諸表監査のために実施することが必要になるとと思われる監査手続の実施を決めることができる。こうした例としては、その期間中に生じた企業結合、リストラ若しくは重大な収益取引などの重大又は異常な取引に関する監査手続の実施がある。

24. 期中財務情報のレビューでは、通常、訴訟や請求に関する質問の裏付けは必要とされない。そのため、通常は、事業体の弁護士に対する質問状を送る必要はない。しかしながら、期中財務情報が、すべての重要な点において、適用可能な財務報告のフレームワークに準拠して作成されていないと監査人に疑義を抱かせる事項が監査人の注意を喚起し、事業体の弁護士が関連する情報を持っている可能性があるとして監査人が信じる場合には、訴訟又は請求に関する事業体の弁護士との直接のコミュニケーションが適切かもしれない。
25. **監査人は期中財務情報が基礎となる会計記録と一致又は調整後一致するという証拠を入手しなければならない。** 監査人は、期中財務情報を以下のものにさかのぼることで、期中財務情報が基礎となる会計記録と一致又は調整後一致するという証拠を入手する可能性がある。
  - (a) 総勘定元帳などの会計記録又は会計記録と一致又は調整後一致する連結明細
  - (b) 必要に応じ、事業体の記録の中の他の補足データ
26. **監査人は、期中財務情報の修正又は期中財務情報における開示を必要とする可能性のある、レビュー報告書日までのすべての事象を経営者が識別しているかどうかを質問しなければならない。** レビュー報告書日後に起こった事象を識別する手続を実施することは監査人には要求されない。
27. **監査人は事業体が継続企業として存続する能力についての評価 (assess) を経営者が変更したかどうかを質問しなければならない。** この質問又は他のレビュー手続の結果、事業体が継続企業として存続する能力について重大な疑義を生じさせる可能性のある事象又は状況が監査人の注意を喚起した場合には、監査人は、以下を実施しなければならない。
  - (a) **継続企業の評価 (assess) にもとづく将来の行動計画、その実行可能性及び経営者が、その計画の結果、状況が改善すると信じているかどうかについての経営者への質問**
  - (b) **期中財務情報における当該事項の開示の十分性の検討**
28. 事業体が継続企業として存続する能力について重大な疑義を生じさせる可能性がある事象又は状況は、年次財務諸表日現在に存在していた可能性もあるし、また、経営者への質問若しくは他のレビュー手続の結果、識別される可能性もある。係る事象又は状況が監査人の注意を喚起した場合には、監査人は、資産の現金化、借入や債務の見直し、支出の削減や延期又は増資などの将来の行動計画について経営者に質問する。監査人はまた、経営者の計画の実行可能性及び経営者が、その計画の結果、状況が改善すると信じているかどうかについて経営者に質問する。しかしながら、経営者の計画の実現可能性やこれらの計画の結果、状況が改善するかどうかの裏付けをとることは、通常、監査人には要求されない。
29. **期中財務情報が、すべての重要な点において、適用可能な財務報告のフレームワークに準拠して作成されるために重要な修正を行うべきかどうかについて監査人に疑問を生じさせる事項が監査人の注意を喚起した場合には、監査人は、レビュー報告書において監査人が結論を表明できるように**

**するため、追加の質問又は他の手続を実施しなければならない。**例えば、監査人のレビュー手続により、重大な売上取引が適用可能な財務報告のフレームワークに準拠して記録されているかどうかについて監査人が疑問を感じた場合には、監査人は、マーケティング責任者及び会計責任者との取引内容の議論や販売契約の通読など、監査人の疑問を解決するのに十分な追加手続を実施する。

*International Standard on Review  
Engagements 2410*

---

**Review of Interim Financial  
Information Performed by  
the Independent Auditor of  
the Entity**

**Conforming Amendments**



**International Federation  
of Accountants**

**Inquiries, Analytical and Other Review Procedures**

19. **The auditor should make inquiries, primarily of persons responsible for financial and accounting matters, and perform analytical and other review procedures to enable the auditor to conclude whether, on the basis of the procedures performed, anything has come to the auditor's attention that causes the auditor to believe that the interim financial information is not prepared, in all material respects, in accordance with the applicable financial reporting framework.**
20. A review ordinarily does not require tests of the accounting records through inspection, observation or confirmation. Procedures for performing a review of interim financial information are ordinarily limited to making inquiries, primarily of persons responsible for financial and accounting matters, and applying analytical and other review procedures, rather than corroborating information obtained concerning significant accounting matters relating to the interim financial information. The auditor's understanding of the entity and its environment, including its internal control, the results of the risk assessments relating to the preceding audit and the auditor's consideration of materiality as it relates to the interim financial information, affects the nature and extent of the inquiries made, and analytical and other review procedures applied.
21. The auditor ordinarily performs the following procedures:
  - Reading the minutes of the meetings of shareholders, those charged with governance, and other appropriate committees to identify matters that may affect the interim financial information, and inquiring about matters dealt with at meetings for which minutes are not available that may affect the interim financial information.
  - Considering the effect, if any, of matters giving rise to a modification of the audit or review report, accounting adjustments or unadjusted misstatements, at the time of the previous audit or reviews.
  - Communicating, where appropriate, with other auditors who are performing a review of the interim financial information of the reporting entity's significant components.
  - Inquiring of members of management responsible for financial and accounting matters, and others as appropriate about the following:
    - Whether the interim financial information has been prepared and presented in accordance with the applicable financial reporting framework.
    - Whether there have been any changes in accounting principles or in the methods of applying them.

REVIEW OF INTERIM FINANCIAL INFORMATION PERFORMED  
BY THE INDEPENDENT AUDITOR OF THE ENTITY

- Whether any new transactions have necessitated the application of a new accounting principle.
  - Whether the interim financial information contains any known uncorrected misstatements.
  - Unusual or complex situations that may have affected the interim financial information, such as a business combination or disposal of a segment of the business.
  - Significant assumptions that are relevant to the fair value measurement or disclosures and management's intention and ability to carry out specific courses of action on behalf of the entity.
  - Whether related party transactions have been appropriately accounted for and disclosed in the interim financial information.
  - Significant changes in commitments and contractual obligations.
  - Significant changes in contingent liabilities including litigation or claims.
  - Compliance with debt covenants.
  - Matters about which questions have arisen in the course of applying the review procedures.
  - Significant transactions occurring in the last several days of the interim period or the first several days of the next interim period.
  - Knowledge of any fraud or suspected fraud affecting the entity involving:
    - Management;
    - Employees who have significant roles in internal control; or
    - Others where the fraud could have a material effect on the interim financial information.
  - Knowledge of any allegations of fraud, or suspected fraud, affecting the entity's interim financial information communicated by employees, former employees, analysts, regulators, or others.
  - Knowledge of any actual or possible noncompliance with laws and regulations that could have a material effect on the interim financial information.
- Applying analytical procedures to the interim financial information designed to identify relationships and individual items that appear to be unusual and that may reflect a material misstatement in the interim



REVIEW OF INTERIM FINANCIAL INFORMATION PERFORMED  
BY THE INDEPENDENT AUDITOR OF THE ENTITY

financial information. Analytical procedures may include ratio analysis and statistical techniques such as trend analysis or regression analysis and may be performed manually or with the use of computer-assisted techniques. Appendix 2 to this ISRE contains examples of analytical procedures the auditor may consider when performing a review of interim financial information.

- Reading the interim financial information, and considering whether anything has come to the auditor's attention that causes the auditor to believe that the interim financial information is not prepared, in all material respects, in accordance with the applicable financial reporting framework.
22. The auditor may perform many of the review procedures before or simultaneously with the entity's preparation of the interim financial information. For example, it may be practicable to update the understanding of the entity and its environment, including its internal control, and begin reading applicable minutes before the end of the interim period. Performing some of the review procedures earlier in the interim period also permits early identification and consideration of significant accounting matters affecting the interim financial information.
  23. The auditor performing the review of interim financial information is also engaged to perform an audit of the annual financial statements of the entity. For convenience and efficiency, the auditor may decide to perform certain audit procedures concurrently with the review of interim financial information. For example, information gained from reading the minutes of meetings of the board of directors in connection with the review of the interim financial information also may be used for the annual audit. The auditor may also decide to perform, at the time of the interim review, auditing procedures that would need to be performed for the purpose of the audit of the annual financial statements, for example, performing audit procedures on significant or unusual transactions that occurred during the period, such as business combinations, restructurings, or significant revenue transactions.
  24. A review of interim financial information ordinarily does not require corroborating the inquiries about litigation or claims. It is, therefore, ordinarily not necessary to send an inquiry letter to the entity's lawyer. Direct communication with the entity's lawyer with respect to litigation or claims may, however, be appropriate if a matter comes to the auditor's attention that causes the auditor to question whether the interim financial information is not prepared, in all material respects, in accordance with the applicable financial reporting framework, and the auditor believes the entity's lawyer may have pertinent information.
  25. **The auditor should obtain evidence that the interim financial information agrees or reconciles with the underlying accounting records.** The auditor

REVIEW OF INTERIM FINANCIAL INFORMATION PERFORMED  
BY THE INDEPENDENT AUDITOR OF THE ENTITY

may obtain evidence that the interim financial information agrees or reconciles with the underlying accounting records by tracing the interim financial information to:

- (a) The accounting records, such as the general ledger, or a consolidating schedule that agrees or reconciles with the accounting records; and
  - (b) Other supporting data in the entity's records as necessary.
26. **The auditor should inquire whether management has identified all events up to the date of the review report that may require adjustment to or disclosure in the interim financial information.** It is not necessary for the auditor to perform other procedures to identify events occurring after the date of the review report.
27. **The auditor should inquire whether management has changed its assessment of the entity's ability to continue as a going concern. When, as a result of this inquiry or other review procedures, the auditor becomes aware of events or conditions that may cast significant doubt on the entity's ability to continue as a going concern, the auditor should:**
- (a) **Inquire of management as to its plans for future actions based on its going concern assessment, the feasibility of these plans, and whether management believes that the outcome of these plans will improve the situation; and**
  - (b) **Consider the adequacy of the disclosure about such matters in the interim financial information.**
28. Events or conditions which may cast significant doubt on the entity's ability to continue as a going concern may have existed at the date of the annual financial statements or may be identified as a result of inquiries of management or in the course of performing other review procedures. When such events or conditions come to the auditor's attention, the auditor inquires of management as to its plans for future action, such as its plans to liquidate assets, borrow money or restructure debt, reduce or delay expenditures, or increase capital. The auditor also inquires as to the feasibility of management's plans and whether management believes that the outcome of these plans will improve the situation. However, it is not ordinarily necessary for the auditor to corroborate the feasibility of management's plans and whether the outcome of these plans will improve the situation.
29. **When a matter comes to the auditor's attention that leads the auditor to question whether a material adjustment should be made for the interim financial information to be prepared, in all material respects, in accordance with the applicable financial reporting framework, the auditor should make additional inquiries or perform other procedures to enable the auditor to express a conclusion in the review report.** For example, if the

REVIEW OF INTERIM FINANCIAL INFORMATION PERFORMED  
BY THE INDEPENDENT AUDITOR OF THE ENTITY

auditor's review procedures lead the auditor to question whether a significant sales transaction is recorded in accordance with the applicable financial reporting framework, the auditor performs additional procedures sufficient to resolve the auditor's questions, such as discussing the terms of the transaction with senior marketing and accounting personnel, or reading the sales contract.

## A U セクション722 期中財務情報

## 分析的手続、質問及びその他のレビュー手続

15. 期中財務情報のレビューを実施するための手続は、一般に、報告されるべき期中財務情報に関連した重要な会計処理上及び開示上の問題に焦点を当てる分析的手続、質問及びその他の手続に限定される。会計士は、一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠させるために、当該期中財務情報に対してなすべきすべての重要な修正について、会計士が気付いているか否かを伝達するための基礎を入手するために、これらの手続を実施する。向けられる個々の質問及び実施される分析的手続並びにその他の手続は、当該事業体の事業及びその内部統制についての会計士の知識に基づいて、当該エンゲージメントに合わせて策定されなければならない。当該事業体の事業及びその内部統制についての会計士の知識は、向けられる質問及び実施される分析的手続に影響を与える。例えば、会計士が、事業体の特定のロケーションにおける統制活動の重大な変更について気付いている場合には、会計士は、(a) 経営者がその変更を監視し、それが意図したとおりに運用されているか否かを検討したか否かなど、追加質問を行い、(b) より正確な期待値 (expectation) をもって分析的手続を採用する、若しくは (c) その両方の実施を検討することがある。

16. 分析的手続及び関連質問。会計士は、異常と考えられ、かつ、重要な虚偽の表示を示唆する関係性及び個別項目に関して質問するための基礎を識別し、提供するために、期中財務情報に対して分析的手続を適用しなければならない。本基準書の目的上、分析的手続には以下が含まれる。

- 事業体の事業及び特定の取引の変更に関する理解に対して考慮を払いながら、当該四半期期中財務情報を直前の期中期間の対応する情報と比較し、また当該四半期及び累計の期中財務情報を前年度の対応する期間と比較すること。
- 財務情報間、及び適切ならば非財務情報間双方の納得できる関係を検討すること。会計士はまた、事業体が作成し、利用した情報、例えば、取締役用の情報パッケージに収められた情報、あるいは上級委員会の要旨説明用資料に収められた情報を検討することを希望する場合もある。
- 記録された金額、又は記録された金額から求められた比率を会計士が作成した期待値と照合すること。会計士は、事業体及び当該事業体が営業活動を行う業界についての会計士の理解に基づき、合理的に存在すると期待される納得できる関係を識別し、用いることにより、かかる期待値を求める。(本基準書の第17項参照。)
- 分解された収益資料を比較すること。例えば、当期中期間の月別及び製品ライン別又は営業セグメント別に報告された収益を、比較可能な前期の期間と比較すること。

会計士が期中財務情報のレビューを行う時に実施を考慮する分析的手続の例については、本基準書の付録Aを参照。会計士は、SAS第56号「分析的手続」（AICPA 職業基準書、第1巻、AUセクション329）における指針が、期中財務情報のレビューを実施する際に役立つことに気付くかもしれない。

17. 期中財務情報のレビューに関連して会計士が分析的手続を行う際に設定される期待値は、通常、監査において設定されるものよりも正確ではない。また、レビューにおいて、会計士は、通常、経営者による応答を他の証拠により裏付けることを要求されていない。しかしながら、会計士は、その他のレビュー手続の結果及び当該事業体の事業及びその内部統制に関する知識に照らして、経営者からの回答が合理的でかつ整合しているかを検討しなければならない<sup>10</sup>。

18. *質問及びその他のレビュー手続*。以下は、期中財務情報のレビューを実施する時に会計士が行わなければならない質問及び会計士が実施しなければならないその他のレビュー手続である。

- a. 期中財務情報に影響を与える項目を識別するために、株主総会、取締役会及び適切な委員会の入手可能な議事録を閲覧するとともに、議事録が入手可能でないものについて会議で検討された事項に関して質問すること。
- b. もしあれば、当該報告事業体の重要な構成要素、その子会社、その他の被投資会社の期中財務情報のレビューを実施する業務を行っている他の会計士からの報告書を入手し、又は報告書が発行されていない場合には当該会計士に質問をすること<sup>11</sup>。
- c. 財務及び会計事項に責任を負う経営者の構成員に以下の質問をすること。
  - 当該期中財務情報が一般に公正妥当と認められる会計原則に継続的に準拠して作成されているかどうか。
  - 当該期中財務情報に影響を与える可能性のある異常又は複雑な状況（会計士が、通常、経営者に質問する異常又は複雑な状況の例については、本基準書の付録Bを参照）。
  - 当該期中期間末の数日間において発生又は認識された重要な取引。
  - 前期の監査及び期中レビューの時に識別された未訂正の虚偽の表示の状態（すなわち、前期の監査及び期中期間の後に修正事項が記録されたかどうか、もしそうならば、当該金額、並びにかかる修正事項が記録された期間）。

---

<sup>10</sup>本基準書の第22項参照。

<sup>11</sup>これらの状況において、会計士は、通常、主たる監査人として行動する監査人と同様の地位にあり（SAS第1号「監査基準及び手続の編纂」の「他の独立会計士が実施した監査の一部」〔AICPA 職業基準書、第1巻、AUセクション543〕を参照。）、財務諸表監査の過程において他の監査人の業務又は報告書を利用する。

- レビュー手続の適用中に生じた疑問に関する事項。
  - 期中財務情報日以降の事象で、かかる情報の表示に重要な影響を与える可能性のあるもの。
  - (1) 経営者、(2) 内部統制の重要な役割を担っている従業員、又は(3) その不正が財務諸表に重要な影響を与える可能性のある他の人々が関与し、事業体に影響を与えるすべての不正又は不正疑惑 (suspected fraud) についての彼らの知識。
  - 当該事業体に影響を与える、例えば、従業員、元従業員、アナリスト、監督者、空売筋 (short sellers)、又は他の人々からのコミュニケーションによって受けた、不正又は不正疑惑についての申し立てに経営者が気付いているかどうか。
  - 重要な仕訳及びその他の修正事項。
  - 監督官庁からのコミュニケーション。
  - 内部統制のデザイン又は運用における重要な弱点 (material weaknesses) を含む、重大な欠陥で、財務データを記録し、処理し、要約し、報告する当該発行者の能力に不利な影響を与える可能性のあるもの。
- d. 期中財務情報が会計記録と一致しているか、あるいは調整されている証拠を入手すること。例えば、会計士は、期中財務情報を、(1) 総勘定元帳などの会計記録、(2) 会計記録から作成された連結精算表、又は(3) 当該事業体の記録における他の根拠資料、と比較することができる。さらに、会計士は、当該期中財務情報が比較又は調整された会計記録の信頼性に関して経営者に質問することを検討しなければならない。
- e. 実施したレビュー手続の結果、及び会計士が気付いたその他の情報に基づき、報告すべき期中財務情報が一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠しているか否かを検討するために、当該期中財務情報を閲覧すること。
- f. 当該期中財務情報を伴う他の情報、及び、(1) 有価証券あるいは受益権の保有者への報告書、(2) 1934年証券取引所法 (フォーム10-Q又は10QSB) により監督官庁に提出する報告書、に記載されるその他の情報を閲覧し、かかる情報又はその表示方法が当該期中財務情報との間で重要な矛盾がないか否かを検討すること<sup>12</sup>。重要な矛盾があると会計士が結論を下したか、あるいは事実の重要な虚偽の表示であると会計士が信ずる情報に会計士が気付いた場合取るべき行動は、特定の状況における会計士の判断に依存するであろう。適切な一連の措置を決定する際に、会計士は、SAS第8号「監査済財務諸表を含む文書におけるその他の情報」(AICPA 職業基準書、第1巻、AUセクション550.04 - 06) の指針を検討しなければならない。

19. 前述の多くのレビュー手続は、事業体による期中財務情報の作成より前に、あるいは作成と同時に実施することができる。例えば、事業体の内部統制についての理解を更新したり、当該期中期間の終了前に該当する議事録の閲覧を開始することは実行可能であろう。当該期

---

<sup>12</sup>主たる会計士はまた、当該エンゲージメントに関与した他の会計士に対して、必要に応じて、その他の情報を閲覧することを依頼するかもしれない。

中期間の早い時点においてレビュー手続の一部を実施することも、当該期中財務情報に影響を与える重大な会計事項を早期に識別し、検討することを可能にする。

20. 訴訟、クレーム及びアセスメントに関する質問。期中財務情報のレビューは、訴訟、クレーム及びアセスメントに関する質問への回答を裏付ける証拠の入手までは想定していない（本基準書の第7項参照）。それゆえに、通常、訴訟、クレーム及びアセスメントに関して事業体の弁護士宛てに質問状を送る必要はない。しかしながら、訴訟、クレーム及びアセスメントに関して未監査期中財務情報が一般に公正妥当と認められる会計原則<sup>13</sup>から乖離しているか否かについて、当該会計士が疑問を生ずるような情報に気付いた場合、また、事業体の弁護士がその疑問に関する情報を所持している可能性を会計士が信ずる場合には、当該弁護士に対して特定の疑問に関する質問をすることは適切である。

21. 継続企業として存続する事業体の能力に関する質問。期中財務情報のレビューは、継続企業として存続する事業体の能力に関する重大な疑義を示唆する状況又は事象を識別することを意図していない。しかしながら、かかる状況又は事象が前期の財務諸表の日付において存在していたかもしれない<sup>14</sup>。さらに、当期中財務情報に対してレビュー手続を実施するプロセスにおいて、会計士は、当該事業体が継続企業として存続する事業体の能力がないことを示唆する状況又は事象に気付く場合がある。いずれの場合においても、会計士は、(a) かかる状況及び事象による不利な影響に対処するための計画に関して経営者に質問し、かつ、(b) 期中財務情報において、かかる事項に関する開示の十分性を検討しなければならない<sup>15</sup>。会計士は、通常、かかる状況及び事象による影響を軽減する、当該情報を裏付ける証拠を入手する必要はない。

---

<sup>13</sup>APB意見書第28号及びレギュレーションS-Xの第10条に準拠して、期中日における財務データの適正な表示に影響を与えると予想される偶発事象及びその他の不確定事項（uncertainties）は、年次報告書に要求される方法と同じ方法により期中報告書において開示しなければならない。かかる開示は、当該偶発事象が消滅するか、解決するか、あるいは重要性がなくなるまで、期中報告書及び年次報告書に再掲しなければならない。偶発事象又は不確定事項についての重要性は、年次財務諸表との関連で判断しなければならない。

<sup>14</sup>本基準書の目的上、「前期の財務諸表の日付において存在した条件又は事象」には、(a) その重大な疑義が経営者の計画についての監査人の検討によって緩和されたかどうかに関わらず、前年度末に存在した継続企業として存続する事業体の能力に関する重大な疑義、又は (b) 直前の期中期間において開示された条件及び事象が含まれる。

<sup>15</sup> 開示される情報は、SAS第59号「継続企業として存続する事業体の能力についての監査人の検討」（AICPA 職業基準書、第1巻、AUセクション341.10）に述べられている。会計士が、継続企業として存続する事業体の潜在的能力がないとすることについての開示が不十分であると判定する場合には、一般に公正妥当と認められる会計原則からの乖離が存在する。

22. *期中レビュー手続の拡張*。期中財務情報のレビュー実施中に、会計士が、当該期中財務情報がすべての重要な点について一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠していないと会計士に信じさせる情報に気付いた場合には、会計士は、追加質問を行い、当該期中財務情報に対してなされなければならないすべての重要な修正について気付いているか否かを伝達するための基礎を提供するために適切と考えたその他の手続を実施しなければならない。例えば、会計士による期中レビュー手続によって、重要な販売取引が一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して記録されているか否かに関して疑問を会計士に抱かせる場合には、会計士は、疑問を解決するために、かかる取引条件を上級のマーケティング及び経理担当者 と討議し、販売契約書を閲覧し、若しくはその両方を実施するなどの追加手続を実施しなければならない。

23. *監査との調整*。期中財務情報のレビューを行う会計士はまた、通常、当該事業体の年次財務諸表の監査も行う契約を締結している。特定の監査手続は、期中財務情報のレビューと同時に実施されることがある。例えば、かかるレビューと関連して取締役会議事録の閲覧により入手した情報はまた、年次監査のためにも利用できる。また、年次財務諸表の監査のために実施する必要のある監査手続が、実行可能な範囲で、期中レビュー時に実施できるような、レビューの対象となる期中期間において発生した重要な又は異常な取引、例えば、企業結合、企業のリストラ、又は重要な収益取引が存在するかもしれない。



## AU Section 722

### *Interim Financial Information*

(Supersedes SAS No. 71)

Source: SAS No. 100.

Effective for interim periods within fiscal years beginning after December 15, 2002.

### **Analytical Procedures, Inquiries, and Other Review Procedures**

.15 Procedures for conducting a review of interim financial information generally are limited to analytical procedures, inquiries, and other procedures that address significant accounting and disclosure matters relating to the interim financial information to be reported. The accountant performs these procedures to obtain a basis for communicating whether he or she is aware of any material modifications that should be made to the interim financial information for it to conform with generally accepted accounting principles. The specific inquiries made and the analytical and other procedures performed should be tailored to the engagement based on the accountant's knowledge of the entity's business and its internal control. The accountant's knowledge of an entity's business and its internal control influences the inquiries made and analytical procedures performed. For example, if the accountant becomes aware of a significant change in the entity's control activities at a particular location, the accountant may consider (a) making additional inquiries, such as whether management monitored the changes and considered whether they were operating as intended, (b) employing analytical procedures with a more precise expectation, or (c) both.

.16 *Analytical procedures and related inquiries.* The accountant should apply analytical procedures to the interim financial information to identify and provide a basis for inquiry about the relationships and individual items that appear to be unusual and that may indicate a material misstatement. Analytical procedures, for the purposes of this section, should include:

---

<sup>9</sup> See paragraph .28 of this section.

- Comparing the quarterly interim financial information with comparable information for the immediately preceding interim period and the quarterly and year-to-date interim financial information with the corresponding period(s) in the previous year, giving consideration to knowledge about changes in the entity's business and specific transactions.
- Considering plausible relationships among both financial and, where relevant, nonfinancial information. The accountant also may wish to consider information developed and used by the entity, for example, information in a director's information package or in a senior committee's briefing materials.
- Comparing recorded amounts, or ratios developed from recorded amounts, to expectations developed by the accountant. The accountant develops such expectations by identifying and using plausible relationships that are reasonably expected to exist based on the accountant's understanding of the entity and the industry in which the entity operates (see paragraph .17 of this section).
- Comparing disaggregated revenue data, for example, comparing revenue reported by month and by product line or operating segment during the current interim period with that of comparable prior periods.

See Appendix A [paragraph .54] of this section for examples of analytical procedures an accountant may consider performing when conducting a review of interim financial information. The accountant may find the guidance in section 329, *Analytical Procedures*, useful in conducting a review of interim financial information.

**.17** Expectations developed by the accountant in performing analytical procedures in connection with a review of interim financial information ordinarily are less precise than those developed in an audit. Also, in a review the accountant ordinarily is not required to corroborate management's responses with other evidence. However, the accountant should consider the reasonableness and consistency of management's responses in light of the results of other review procedures and the accountant's knowledge of the entity's business and its internal control.<sup>10</sup>

**.18** *Inquiries and other review procedures.* The following are inquiries the accountant should make and other review procedures the accountant should perform when conducting a review of interim financial information:

- a. Reading the available minutes of meetings of stockholders, directors, and appropriate committees, and inquiring about matters dealt with at meetings for which minutes are not available, to identify matters that may affect the interim financial information.
- b. Obtaining reports from other accountants, if any, who have been engaged to perform a review of the interim financial information of significant components of the reporting entity, its subsidiaries, or its other investees, or inquiring of those accountants if reports have not been issued.<sup>11</sup>
- c. Inquiring of members of management who have responsibility for financial and accounting matters concerning:

---

<sup>10</sup> See paragraph .22 of this section.

<sup>11</sup> In these circumstances, the accountant ordinarily is in a position similar to that of an auditor who acts as principal auditor (see section 543, *Part of Audit Performed by Other Independent Auditors*) and makes use of the work or reports of other auditors in the course of an audit of financial statements.

- Whether the interim financial information has been prepared in conformity with generally accepted accounting principles consistently applied.
  - Unusual or complex situations that may have an effect on the interim financial information. (See Appendix B [paragraph .55] of this section for examples of unusual or complex situations about which the accountant ordinarily would inquire of management.)
  - Significant transactions occurring or recognized in the last several days of the interim period.
  - The status of uncorrected misstatements identified during the previous audit and interim review (that is, whether adjustments had been recorded subsequent to the prior audit or interim period and, if so, the amounts recorded and period in which such adjustments were recorded).
  - Matters about which questions have arisen in the course of applying the review procedures.
  - Events subsequent to the date of the interim financial information that could have a material effect on the presentation of such information.
  - Their knowledge of any fraud or suspected fraud affecting the entity involving (1) management, (2) employees who have significant roles in internal control, or (3) others where the fraud could have a material effect on the financial statements.
  - Whether they are aware of allegations of fraud or suspected fraud affecting the entity, for example, received in communications from employees, former employees, analysts, regulators, short sellers, or others.
  - Significant journal entries and other adjustments.
  - Communications from regulatory agencies.
  - Significant deficiencies, including material weaknesses, in the design or operation of internal controls which could adversely affect the issuer's ability to record, process, summarize, and report financial data.
- d.* Obtaining evidence that the interim financial information agrees or reconciles with the accounting records. For example, the accountant may compare the interim financial information to (1) the accounting records, such as the general ledger; (2) a consolidating schedule derived from the accounting records; or (3) other supporting data in the entity's records. In addition, the accountant should consider inquiring of management as to the reliability of the records to which the interim financial information was compared or reconciled.
- e.* Reading the interim financial information to consider whether, based on the results of the review procedures performed and other information that has come to the accountant's attention, the information to be reported conforms with generally accepted accounting principles.
- f.* Reading other information that accompanies the interim financial information and is contained in reports (1) to holders of securities or beneficial interests or (2) filed with regulatory authorities under the Securities Exchange Act of 1934 (such as Form 10-Q or 10-QSB), to consider whether such information or the manner of its presentation

is materially inconsistent with the interim financial information.<sup>12</sup> If the accountant concludes that there is a material inconsistency, or becomes aware of information that he or she believes is a material misstatement of fact, the action taken will depend on his or her judgment in the particular circumstances. In determining the appropriate course of action, the accountant should consider the guidance in section 550, *Other Information in Documents Containing Audited Financial Statements*, paragraphs .04 through .06).

**.19** Many of the aforementioned review procedures can be performed before or simultaneously with the entity's preparation of the interim financial information. For example, it may be practicable to update the understanding of the entity's internal control and begin reading applicable minutes before the end of an interim period. Performing some of the review procedures earlier in the interim period also permits early identification and consideration of significant accounting matters affecting the interim financial information.

**.20** *Inquiry concerning litigation, claims, and assessments.* A review of interim financial information does not contemplate obtaining corroborating evidence for responses to inquiries concerning litigation, claims, and assessments (see paragraph .07 of this section). Consequently, it ordinarily is not necessary to send an inquiry letter to an entity's lawyer concerning litigation, claims, and assessments. However, if information comes to the accountant's attention that leads him or her to question whether the interim financial information departs from generally accepted accounting principles<sup>13</sup> with respect to litigation, claims, or assessments, and the accountant believes the entity's lawyer may have information concerning that question, an inquiry of the lawyer concerning the specific question is appropriate.

**.21** *Inquiry concerning an entity's ability to continue as a going concern.* A review of interim financial information is not designed to identify conditions or events that may indicate substantial doubt about an entity's ability to continue as a going concern. However, such conditions or events may have existed at the date of prior-period financial statements.<sup>14</sup> In addition, in the course of performing review procedures on the current-period interim financial information, the accountant may become aware of conditions or events that might be indicative of the entity's possible inability to continue as a going concern. In either case, the accountant should (a) inquire of management as to its plans for dealing with the adverse effects of the conditions and events and (b) consider the adequacy of the disclosure about such matters in the interim financial information.<sup>15</sup> It ordinarily is not necessary for the accountant to obtain evidence

---

<sup>12</sup> The principal accountant also may request other accountants involved in the engagement, if any, to read the other information.

<sup>13</sup> In accordance with APB Opinion No. 28 and Article 10 of Regulation S-X, contingencies and other uncertainties that could be expected to affect the fairness of the presentation of financial data at an interim date should be disclosed in interim reports in the same manner required for annual reports. Such disclosures should be repeated in interim and annual reports until the contingencies have been removed, resolved, or become immaterial. The significance of a contingency or uncertainty should be judged in relation to annual financial statements.

<sup>14</sup> For purposes of this section, "conditions or events that existed at the date of prior-period financial statements" include (a) substantial doubt about the entity's ability to continue as a going concern that existed at the preceding year end, regardless of whether the substantial doubt was alleviated by the auditor's consideration of management's plans, or (b) conditions and events disclosed in the immediately preceding interim period.

<sup>15</sup> Information that might be disclosed is set forth in section 341A, *The Auditor's Consideration of an Entity's Ability to Continue as a Going Concern*, paragraph .10. If the accountant determines that the disclosure about the entity's possible inability to continue as a going concern is inadequate, a departure from generally accepted accounting principles exists.

in support of the information that mitigates the effects of the conditions and events.

**.22** *Extension of interim review procedures.* If, in performing a review of interim financial information, the accountant becomes aware of information that leads him or her to believe that the interim financial information may not be in conformity with generally accepted accounting principles in all material respects, the accountant should make additional inquiries or perform other procedures that the accountant considers appropriate to provide a basis for communicating whether he or she is aware of any material modifications that should be made to the interim financial information. For example, if the accountant's interim review procedures lead him or her to question whether a significant sales transaction is recorded in conformity with generally accepted accounting principles, the accountant should perform additional procedures, such as discussing the terms of the transaction with senior marketing and accounting personnel, reading the sales contract, or both, to resolve his or her questions.

**.23** *Coordination with the audit.* The accountant performing the review of interim financial information ordinarily will also be engaged to perform an audit of the annual financial statements of the entity. Certain auditing procedures may be performed concurrently with the review of interim financial information. For example, information gained from reading the minutes of meetings of the board of directors in connection with the review also may be used for the annual audit. Also, there may be significant or unusual transactions occurring during the interim period under review for which the auditing procedures that would need to be performed for purposes of the audit of the annual financial statements could be performed, to the extent practicable, at the time of the interim review, for example, business combinations, restructurings, or significant revenue transactions.